

第30回 自動車整備技術の高度化検討会
—議事概要—

■議事（１） 整備マニュアル等の提供義務

【資料２】自動車整備技術の高度化への対応

【資料３】「整備マニュアル」、「純正スキャンツール」の提供 関連質疑

発言者	発言内容
自工会	○資料３ P.5 の事例１については、純正スキャンツールの提供に関する自動車メーカーからディーラーへの周知が一部上手くできていなかったために、すぐに提供を受けられない事業者が出てきてしまったと思われる。個別案件ではあるが１つ１つ然るべき対応をさせていただくので、同様の事例があれば是非フィードバックいただきたい。 ○事例２については、自動車メーカーとしては市場の台数規模やスキャンツールのサポート期間等を踏まえて切替え作業を行っているが、市場に残っている車両が少ない場合など、やはりどうしてもカバーしきれない場合はあるかと思う。しかし、いただいた事例のように、対象台数が多いにも関わらず提供を受けられないような状況がまた発生するようであれば、市場の声を拾って対応していきたい。今回は貴重な声をいただけたと思うので、フィードバックして各自動車メーカーに伝えていきたい。
事務局	○事例１、２については、国土交通省からの指導により、該当する自動車メーカーが極めて速やかかつ適切に対処したため大きな問題とはならなかった。 ○円滑に進められたのは、整備事業者からいただいた困り事が詳細なものであり、そのため具体的に該当する自動車メーカーに情報を伝えられたためである。困りごとの原因が詳細に特定できないような情報ではどうしても対処が難しいため、実態調査をしっかりと行っていきたい。 ○なお、純正スキャンツールの提供は法律に基づく義務のため、果たしていないと理由によらず違反した状態となる。十分にご理解いただきたい。
自工会	○実態調査については、主に輸入車の整備マニュアルについて説明されていたが、国産車についても調査をされる予定か。
事務局	○国産車の整備マニュアルについてはおよそ日整連のサービスである FAINES にて提供されていると把握している。調査の可否について日整連に伺いたい。

第 30 回自動車整備技術の高度化検討会 (R7.6.19)

日整連	○現在 FAINES の会員数は 5 万 2 千程度で今後も右肩上がりに増加すると予想されることから、(特に最近の自動車の点検整備にあたって) 整備マニュアルが重要であると自覚している整備事業者が増えている。 ○あえての国産車の調査は不要と思われるが、もし必要と考える団体があれば実施した方がよいのでは。
事務局	○日車協連として FAINES の情報に関する困り事や、調査対象に国産車メーカーを入れるべきかについてご意見はあるか。
日車協連	○車体整備に関しては、整備マニュアルのうちとりわけボディ寸法が必要であり、整備マニュアル入手は必要不可欠。特に輸入車に関して傘下会員はかなり苦労しているようなので、ぜひそういった声を収集していただきたい。
日整連	○整備マニュアルの括りで考えると、たしかに国産車は FAINES に提供いただいているが、その内容まで踏み込んで聞くのがよい (例えば、入手したいが入っていないもの)。この場合は、国産車も調査の対象になる。
事務局	○細部まで見ると欠けている情報があるかも知れないので、そういった意見も収集できるようなアンケートとしたい。 ○一部の情報が欠けていて困るといった声は日整連に届いているか。
日整連	○具体的な情報はなかなか入ってこないが聞いている。
事務局	○自工会から見て、提供情報の濃淡や過不足は考えられるか。
自工会	○各社の情報を見比べていないので明確にはお伝えできないが、提供義務の範囲をどう捉えるかは個社による。不足しているとの声があれば真摯に受け止め、改善できるところはしていきたい。
事務局	○やはり具体的な事例がないと議論が難しいため、実態調査で明らかにしたい。 ○情報の範囲について、詳細までは定めていないため、解釈に差が生じている可能性を認識した。
日車協連	○同じ種類の整備であっても、メーカー毎で設定されている分類や表現が異なるため、マニュアルを見ても分からないことがよくある。(表現を統一するなど、) 対策を考えていただきたい。
事務局	○現状、そこまで横並びに配慮して作られてはおらず、輸入車については当然日本語ではない場合もあるので読む側の勉強も大事かと思うが、今後の課題として受け取られたのではないか。
自工会	○確かに読み手目線という考え方もあるが、システムや個別部品の名称、並べ方等をメーカー間で統一することは、新車を続々と出していることも踏まえると難しい。ただ、いただいたご意見は各メーカーへフィードバックし、各関係会社の担当者にも情報が伝わるようにさせていただく。

須田座長	○ここまでの話は国産車がメインであったが、輸入車はどうか。
JAIA	○JAIA のホームページで極力分かりやすい情報提供を行ってきたつもりであるが、事例 3 を拝見し、結果的にうまく提供できていない状況が垣間見えるため、今後いかに正しく周知していくかを考えていかなければと感じた。
事務局	○その点は国土交通省も一緒になってやらなければと考えている。
JAIA	○ディーラー、専業にかかわらず、データは本社のサーバーにあって、これを勝手に第三者に転売・提供してはならないとの契約で提供を受けている。事例 3 は、契約に従い、ディーラーからの提供はできないという現状を示すものである。
事務局	○我々もディーラーが悪くないことは理解しており、資料にも明記した。 ○例えば FAINES に輸入車の情報を入れる場合どのような課題があり、どこまで現実的な議論ができそうか、日整連の立場としての感触を聞きたい。
日整連	○輸入車メーカーにもよるが、海外ではメーカー、整備工場間の個別契約が主流であり、FAINES にデータを入れるとなると、(いわゆる二次利用的な扱いとなり、) 会員数分の料金を請求され途方もない高額となると伺ったことがある。また、本国サーバーへのアクセスとなるためセキュリティも厳しく見られ、かなりハードルが高い。
事務局	○国産車メーカーではどう整理しているか。
日整連	○国産車に関しては各メーカーと契約を行っており、アクセス量に応じた支払いを行っている。
事務局	○契約形態の問題であり、そこに課題があるものと理解した。(契約主体は本国メーカーのため、) インポーターではなく本国との間で解決すべき課題と認識した。今後の対応について引き続き検討してまいりたい。
廣瀬委員	○認証工場目線だと、輸入車と国産車で情報を取りに行く先が分かれているので、例えば FAINES で情報を一括管理してそこへ取りに行くような検討はできないか聞こうと思ったが、既に先ほどの議論で回答を得たものと認識する。
事務局	○現時点で FAINES に国産・輸入全メーカーの情報を入れるのは無理だとしても、日整連の HP に JAIA の HP のリンクを掲載することで一覧性は作れるのではないか。
日整連	○現時点で FAINES に JAIA の HP へのリンクは設けている。
事務局	○承知した。輸入車の仕組みへの理解が不十分な事業者もあるため、より分かりやすくなる方向を考えてまいりたい。
須田座長	○(その他意見なかったため、) ここまでの議論を踏まえて調査していただきたい。

■議事（２） 汎用スキャンツールの機能向上

【資料４】新ルール策定に向けた WG 活動報告 関連質疑

(参考資料１ 新ルール内容（前回報告内容）)

(参考資料２、３ 新ルール策定案)

発言者	発言内容
古川委員	○大変すばらしい話で、スキャンツールの一層の普及に寄与すると思う。 ○「OBD 情報の粒度、フォーマットの標準化」は非常に重要と思うので、（整備マニュアルでは表現等の各社統一が難しいとのことだったが、）うまく標準化して使いやすくするよう検討願いたい。
事務局	○そのような指摘はツールメーカーからも頂いている。自機工からコメントはあるか。
自機工	○ツールメーカーとしても各社統一されていないと理解が難しい部分もあるため、フォーマットの標準化は是非やっていきたい。まずは各社から情報を提供いただき、順次改善点を洗い出しながら検討していきたい。
自工会	○プログラム関係のような深く細かい話については統一することで各社の競争力や開発を阻害する懸念もあるため、どこまで歩み寄れるかツールメーカーの声を聞きつつ今後精査させていただきたい。
事務局	○自動車メーカーの知的財産であり、ソースコードやプログラムの詳細までを全て開示することは求めておらず、スキャンツール開発に必要な粒度の情報を提供していただいている。それが自動車メーカー間で異なるのは悪いことではないが、せっかく第三者機関が間に入るため、自機工がツールメーカーのニーズを酌んで共通フォーマットを定めることも考えている。 ○本議論に関し、自機工から自工会に対して何か要望等はあるか。
自機工	○まだこれから議論していく段階と思うので、会員からの情報や意見を収集しつつ、機会を捉えて随時ご相談させていただきたい。
自工会	○協調領域、競争領域があると思うので、まずは色々な声を聴き、実態に合った形もしくは両者ウィン・ウィンになれるよう、引き続き一緒に議論させていただければと思う。
須田座長	○本件については「こういう形で進んでいる」ということを共有いただいたので、具体的な話が出た際にはまたご議論いただければと思う。

■議事（３） 「自動車整備士等の働きやすい・働きがいのある職場づくりに向けたガイドライン」のアップデート

【資料５】「自動車整備士等の働きやすい・働きがいのある職場づくりに向けたガイドライン」のアップデート 関連質疑

発言者	発言内容
事務局	○好事例の展開は引き続きやっていきたい。 ○一案として、日刊自動車新聞社が主催している「整備事業者アワード」とは親和性があることから、コラボレーションしていきたい。他にもアイデアがあれば事務局まで連絡いただきたい。
須田座長	○「整備事業者アワード」は私が審査委員長をやっており先日発表したばかりである。取組事例は豊富にあるので、ぜひ検討いただければと思う。
古川委員	○整備士同士のコミュニティを作るとより発展するのではないか。SNS 等を活用し、全体を見るだけでなく相互に情報交換できる場を設ければよい。
事務局	○今まではブロックごとの車座対話のような形で実施していたが、それを発展させて情報交換できる場を作るのはよいかと思う。ざっくばらんに話せるような場を作ればよいと思った。 ○ガイドラインの改訂内容や周知方法についてコメント、アイデアがあれば頂きたい。
自工会	○アップデート内容に異論ない。作り出したばかりであり、今後よりよい事例など出てくるかと思うので、世の中の動きをキャッチアップしながらアップデートしていったほしい。 ○新しいものはまず根付かせることが肝心なので、先ほど議論のあったスキャンツールやマニュアル、そしてこのガイドラインなどは、「悩んだらとりあえずここを見て」といった窓口を作り、URL を貼ってアクセスしやすくすることが間口を広げるためにまず必要なことではないか。 ○「働きやすい・働きがいのある」といった取組はなかなか収益に直結しにくい一方で必要性は高いため、とにかく地道に周知していくことが一番大事と思う。
日整連	○ガイドラインのアップデートは非常に分かりやすくなったと思う。 ○振興会の中でも細かく地域を分けた整備士同士のコミュニティがあるため、その中でこうした話もできるのではないか。社長から提案することもあれば整備士からの提案もあり得るので、コミュニティの中で展開を図っていく方法は十分考えられると思う。 ○日整連では計 15 事業者へヒアリング等を通じて好事例集を作成した。今年度はそれを見やすくする形でホームページ等に掲載していく予定

	である。当初は事業主への情報提供という形での掲載を考えていたが、メカニックにも見てもらって社長に提言できるような形の分かりやすいホームページを作ろうと考えている。
JAIA	○当初の文字中心のものと比べて格段に取り組みやすいものとなった。 ○普及のためには色々な場での周知が必要なため、JAIA のアフターセールス委員会等でも周知していきたい。 ○アフターセールス委員会で紹介したところ、ポジティブな意見が出ている。
日車協連	○我々のような小さい事業所では事業者と従業員が一体となって働きやすい職場づくりを実践しないといけないと考えている。先ほど情報交換できる場を作ればよいとの話もあったが、従業員と経営者とが腹を割って話せる場を作るという内容もガイドラインに盛り込んでどうか。(待遇だとか労働基準法の遵守だとかは当たり前だが、一例として、従業員と経営者とで話し合ってリスクアセスメントを策定するなど。)
JAMCA	○一生懸命育てた学生たちを送り出す立場としては、送り出す先に魅力がないと学生に自信を持って勧められないので、こうした動きは非常に有難く、啓蒙していただけることに感謝する。 ○現状、整備士という職業があまり注目されず希望者がどんどん減っていることを踏まえ、発信力のあるところでこの仕事の魅力を伝えられる場があるとよい。 ○人が減っていく中で支えになるのが留学生だが、待遇だけに目が行って都市部に集中しがちである。留学生は金銭だけでなく色々な問題を抱えていたりするので、宗教的な問題やコミュニティの形成など様々な情報があると、地方にも行き渡らせることができるのではないかと。(例えば、教育現場では各国の自慢大会のようなものを実施しているところもある。)
全自短協	○ガイドラインについては大変良いものができ、事業者と働く立場の人たちにとって良い環境づくりに貢献するものと思う。 ○現状、留学生が増えて日本人の学生が非常に少ないところが残念ではあるが、今後どういう働き方ができるかといった方向性を学生たちに伝えていきたい。
事務局	○分かりやすい周知の重要性という観点では我々のホームページ自体が見づらいと感じるため、今年度中に何らかの改善を行いたい。 ○ガイドラインは、経営者のみならず整備士の方々が見ても分かりやすいものとなるよう、内容や見せ方を今年度に今少し工夫したい。 ○「働きやすさ・働きがい」は今後この業界を目指す人に対しての一番のアピールポイントになると考えるので、ホームページを見やすくする中で、今後業界を目指す人にとっても整備士や整備事業者の良いところが

	十分伝わるよう努力したい。 ○国土交通省自身も働きやすい・働きがいのある職場改革を進めているが、物流・自動車局では2年目、3年目の若手職員が中心となって取組内容を詰めたらオフィス環境が大変良い方向に変わったので、こうした声をうまく吸い上げる仕組みが大事だと実感した。
機構	○ガイドラインは非常に良い改訂をしていただいた。特に取り組みやすさという点では、自己採点表が入口になっているのが非常に良い。 ○各種研修等において自己採点表を活用して実際に手を動かしてもらうと、各事業者での取組みに繋がるのではないかな。 ○働きやすい・働きがいのある職場づくりについては、我々もしっかりやっていかねばと改めて認識した。
軽検協	○軽検協でも人材不足に悩まされており、研修やコミュニケーションの活性化等に取り組んでいるもののなかなか結果が出せていない。ガイドラインには軽検協にも通ずるところがあるので活用させていただきたい。 ○こうした取組は長く取組むことが重要と考えるので、環境や技術面の変化を適宜見ながら改善していくことが必要である。
事務局	○ガイドラインは出来上がり次第公表し、委員の皆様方にもお知らせとともにリンクをお送りするのでご周知願いたい。

■議事（４） 今後の課題

【資料６】今後の課題 関係質疑

発言者	発言内容
須田座長	○先ほど整備士の学校の留学生というキーワードが出てきたが、その辺は何か検討しなくてよいかな。
事務局	○新しく2名から明示的に論点として頂いたので、留学生関係でどういった困り事があるかの洗い出しは必要と思われる。 ○一昨年度あたりから人材確保WGの方で全国のディーラーや整備事業者を対象としたアンケートを実施しており、その中で外国人労働者に関するデータも収集している。今年度も実施予定であるため、事業者に入ってどうだったか、入る前にどういう情報があればよかったかなどの意見をまず収集したい。 ○ただし、留学生に関して、学生時代の不安、懸念、課題等の情報を我々は十分持ち合わせていないため、学校関係者の皆様と連携し、アンケートやインタビューを通じて情報収集を図りたいと考えている。 ○したがって、まずは人材確保WGにおいて、留学生関係のアジェンダを設定して検討していきたいと考えている。

須田座長	○私自身、ディーラーに整備を頼んだら外国人が対応してくれたという経験が随分ある。
事務局	○自工会の方から、外国人に働いてもらう上での苦勞、工夫、メリットなどがあればご紹介願いたい。
自工会	○自工会としてではなく、一メーカー、一販売店の例として述べると、文化の違いや納税制度の違いなどについてかなり入念な説明に苦勞されているようだ。外国人労働者にとって本国への仕送りは重要だが、福利厚生等も踏まえた上で仕送りできる分を算出するのが結構複雑で、そこをしっかりと理解してもらった上で定着を図る必要がある。技術面の心配はそれよりも低いとのこと。 ○教育については事業者ごとのばらつきはあるが、OJT を中心に、重点的に実施している販売店もあるので、こうしたところが参考例として紹介できる。
事務局	○整備技術の高度化という観点で、その他、今年度から来年度にかけて議論すべきテーマはあるか。
日整連	○追加アジェンダではないが、国産車でも最近は新装置、新技術等が搭載された車が増えてきているため、アンケートに余力があれば、整備マニュアルにおいて未記載の車種等があるか調査していただけると助かる。
事務局	○承知した。どういう聞き方がよいか、日整連、自工会、JAIA と相談しながらアンケートを作っていきたい。

■座長挨拶

発言者	発言内容
須田座長	○本日は技術情報、スキャンツール、人材の 3 点について非常に前向きな議論ができた。本日の議論を踏まえ、ぜひ国土交通省でも取組みを進めていってほしい。

(凡例)

自工会: 日本自動車工業会

日整連: 日本自動車整備振興会連合会

日車協連: 日本自動車車体整備協同組合連合会

全自短協: 全国自動車短期大学協会

軽検協: 軽自動車検査協会

JAIA: 日本自動車輸入組合

自機工: 日本自動車機械器具工業会

JAMCA: 全国自動車大学校・整備専門学校協会

機構: 自動車技術総合機構

事務局: 国土交通省

以上